関西支部総会・講演会

幹事長　緒方　文彦

関西支部では、2021年12月3日（金）にオンライン（Zoom）にて、初めての支部総会および講演会を開催しました。参加者は40名でした。総会では、前年度の活動報告および決算報告、当該年度の役員体制、活動予定および会計状況が報告されました。また、本年度は2020年度および2021年度の関西水環境賞、奨励賞、社会・文化賞の表彰式および受賞者講演が行われました。2020年度関西水環境賞は尾崎博明氏（大阪産業大学 名誉教授）に、奨励賞は清水聡行氏（当時、立命館大学 講師）および野呂和嗣氏（当時、（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所研究員）に、社会・文化賞は川西自然教室にそれぞれ授与されました。2021年度関西水環境賞は藤井滋穂氏（京都大学大学院地球環境学堂客員教授・名誉教授）に、社会・文化賞はぼてじゃこトラストおよびNPO法人 海浜の自然環境を守る会にそれぞれ授与されました。総会の後には、寺崎正紀氏（岩手大学人文社会科学部教授）から「データでよむコロナ禍での河川水質について」と題してご講演いただきました。講演会では、活発な質疑応答が行われ、参加者にとって非常に有意義な時間であったと確信しています。

プログラム

13:00～13:30　総会
13:30～15:00　2020年度表彰式および受賞者講演
15:00～16:10　2021年度表彰式および受賞者講演
16:20～17:20　講演会
「データでよむコロナ禍での河川水質について」
岩手大学 人文社会科学部　教授 寺崎　正紀 氏

2021年度受賞者の言葉

［関西水環境賞］流域の水質汚濁実態の解明と水域管理に関する研究

京都大学地球環境学堂客員教授・名誉教授　藤井　滋穂

このたびは、日本水環境学会関西支部から第16回関西水環境賞を授与いただいたこと、大変光栄に存じるとともに、非常に嬉しく思います。関西水環境賞の第１回は、恩師の宗宮功京都大学名誉教授が2006年に受賞されており、その推薦に関わったものとしても感慨の深いものです。

流域の水質汚濁と管理に関する研究は、京都大学助手に奉職して以来、現在に至るまで関わってきた長年のテーマです。研究フィールドは、琵琶湖南湖、北湖、京都鴨川、琵琶湖流入河川、淀川流域等と関西エリア中心ですが、海外でもタイ・バンコクの運河、タイ・コンケン地域のPhong川流域、ベトナム・ハノイ周辺のNhue-Day川流域で実施してきました。調査項目も、有機物・富栄養化指標（BOD、COD、SS、N、P）以外にも、ミネラル（硬度、Na^+）、微生物指標（大腸菌群、ウイルス、寄生虫）、微量化学物質（PFOS、PAHs）など、場の特性と問題に応じて種々な指標を対象にしました。

フィールド研究の醍醐味は、実際の環境の中で調査し、現場の問題を直接感じ、研究することです。実験室内とは異なり、人間活動を含め様々な要因で事象が生じていることを体験できます。教授となってからは、時間等の制約でなかなか調査に参加できなくなりましたが、研究サイトには原則一度は訪問するように努めたつもりです。なお、2021年3月で定年退職し、現在は客員教授として1人の研究室となっています。自由になる時間は増えましたが、逆に一緒に研究する学生・実験室がなくなり、昔のような活発な研究はできません。ただ今までの人間関係を生かしアンケート調査や簡易分析でフィールド調査も続けています。9月にはタイに行き、水利用の調査を予定しています。

2021年12月の受賞講演・授賞式は、新型コロナにより当然のごとくオンラインとなりました。本稿を執筆中の今（2022年8月）、対面での学会はできるようになりましたが、いまだ懇親会などの飲食を伴うイベントができる状況ではありません。早く、コロナが納まり、関西支部の皆様と懇親を深められる機会が来ることを心から望んでいます。

最後に、今回の受賞およびそれに至る私の活動は、多数の皆様の支援によるものです。とりわけ恩師の宗宮功先生、アジア工科大学（AIT）のChongrak Polprasert先生、立命館大学の山田淳先生には大きく引き立ていただき、それが今回の成果につながるものと思っています。これら3先生ならびにその他の多数の先輩・後輩さらに指導した学生の皆様に深く感謝するとともに、今回の受賞の喜びを共有したいと思います。

＜ 藤井　滋穂　氏 ＞

1980年4月～ 1991年8月京都大学工学部 助手・講師
1991年8月～ 1993年8月アジア工科大学 助教授
1993年9月～ 1998年3月立命館大学理工学部 助教授
1998年4月～ 2021年3月京都大学工学研究科 助教授・教授　地球環境学堂 教授
2021年4月～　京都大学地球環境学堂　客員教授・名誉教授

[社会・文化賞] 滋賀の魚つかみ文化を次世代につなぐ活動

ぼてじゃこトラスト

このたびは歴史と名誉ある日本水環境学会関西支部社会・文化賞をいただき、大変光栄に思います。審査に関わっていただいた先生方に厚く御礼申し上げます。滋賀県ではかつて多く生息していた生き物たちが次々と姿を消し、またそれを知らずに育つ子どもたちも増えています。本会はこれまで、イチモンジタナゴの野生復帰と、子どもたちへの環境学習の機会の提供を両輪で進めてきました。最近は、スポンジエイジ世代（3-6才）や発達障害者向けプログラムの充実など、活動の新たな展開も図っております。今回の受賞を機に、これらの活動をさらに前に進め、また広げていく所存です。

代表　川瀬　成吾

＜ ぼてじゃこトラスト ＞

「ぼてじゃこトラスト」は、タナゴ類（通称「ぼてじゃこ」）が棲める豊かな自然環境を守るため、1996年（平成8年）に滋賀県大津市で設立された。滋賀の魚つかみ文化を次世代につなぐために、①滋賀県内の魚類調査・研究、イチモンジタナゴの野生復帰、②親子で自然に親しみ、遊び、学ぶ「ぼてじゃこワンパク塾」の活動、③幼児や発達障害者向け活動、④地域活動への指導・支援などを行っている。

[社会･文化賞] 甲子園浜を通じた人と海浜と自然の理解と教育及び保護の普及啓発活動

NPO 法人 海浜の自然環境を守る会

甲子園浜は、大阪湾の最も奥に位置し、甲子園球場から南へ1km、住宅街のすぐそばにあって、東西およそ1.8kmの、砂浜･干潟･磯のある海岸です。

高度経済成長期、甲子園浜を全面埋め立てて流通港湾施設を建設する計画が報じられると、地域の母親たちは、のちに住民たちも一緒になって埋め立て工事差し止め訴訟を起こし、1982年に埋め立て面積を半減し、地域の計画に住民が参加する協議会を設立することで和解が成立し、甲子園浜が残りました。

地域住民とともに、支えられながら、甲子園浜を次世代へとつなぐ活動をしてきたことが今回認められ、大変嬉しく思います。

ありがとうございました。

代表　前田　文信

＜ NPO 法人 海浜の自然環境を守る会 ＞

2004年設立。甲子園浜を守り、学び、伝えるという原則のもと、地域住民との清掃活動をはじめ、大阪湾生き物一斉調査への参加、野鳥観察会、海浜植物の調査と保護のほか、甲子園浜の歴史を学んで海の遺跡を探検しよう･夜の甲子園浜観察会といったイベント、講演会や特別展の開催など年間を通じて活動し、ニュースやホームページ、Facebook、地域回覧で情報発信している。2024年には設立20周年の記念特別展を予定している。